

2017年度 環境経営レポート

株式会社大和生物研究所

第7期活動期間 2017年4月1日～2018年3月31日



『自然随順』の企業理念のもと、自然との共生を目指します



環境経営

エコアクション21
認証番号 0009208

作成日：2018年6月19日

目次

1. はじめに
2. 組織の概要・製品紹介
3. 環境管理体制
4. 企業理念から環境経営方針へ
5. 環境経営方針
6. 環境経営方針実現に向けて～計画～
7. 環境経営方針実現に向けて～実績～
8. 当期環境経営目標・実績及び中期目標
9. 当期環境経営計画・取組内容及び結果と次年度の計画
10. 環境目標の達成状況
11. 環境活動への取り組み
12. 環境法規の遵守
13. 代表者による評価と見直し



1. はじめに

株式会社大和生物研究所は来年で創業50周年を迎えます。

企業理念である『**自然随順**』（自然の理、自然の法則に逆らわないこと）のもと、創業当初から「ゼロエミッション（廃棄物ゼロ）」を目指し、「自然との共生」に取り組んで参りました。環境への活動を「見える化、測る化」することで更に推進したいと考え、マネジメントシステムとしてEA21を取り入れました。

また、10年先を見据えた新しいビジネスプラン「事業計画2024」を立ち上げ、環境経営方針に反映させています。

クマ笹関連商品の製造・販売・研究開発・竹笹文化の啓蒙活動を通じ、社員全員が自主的・積極的に循環型の生産サイクルの実現に取り組みます。

2. 組織の概要・製品紹介

組織の概要

1) 事業者及び代表者名
株式会社大和生物研究所
代表取締役 大泉 高明

2) 所在地
事業本部 神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP D棟 8F
蓼科工場 長野県茅野市玉川字原山 11400-1018

3) 事業内容
クマ笹に関する医薬品、健康食品の製造、販売
太陽光発電事業

4) 事業の規模
売上高 568 (百万円)
従業員数 50名

5) 認証の対象範囲
全組織・全活動



製品紹介

主力製品 (売上トップ3)



その他製品



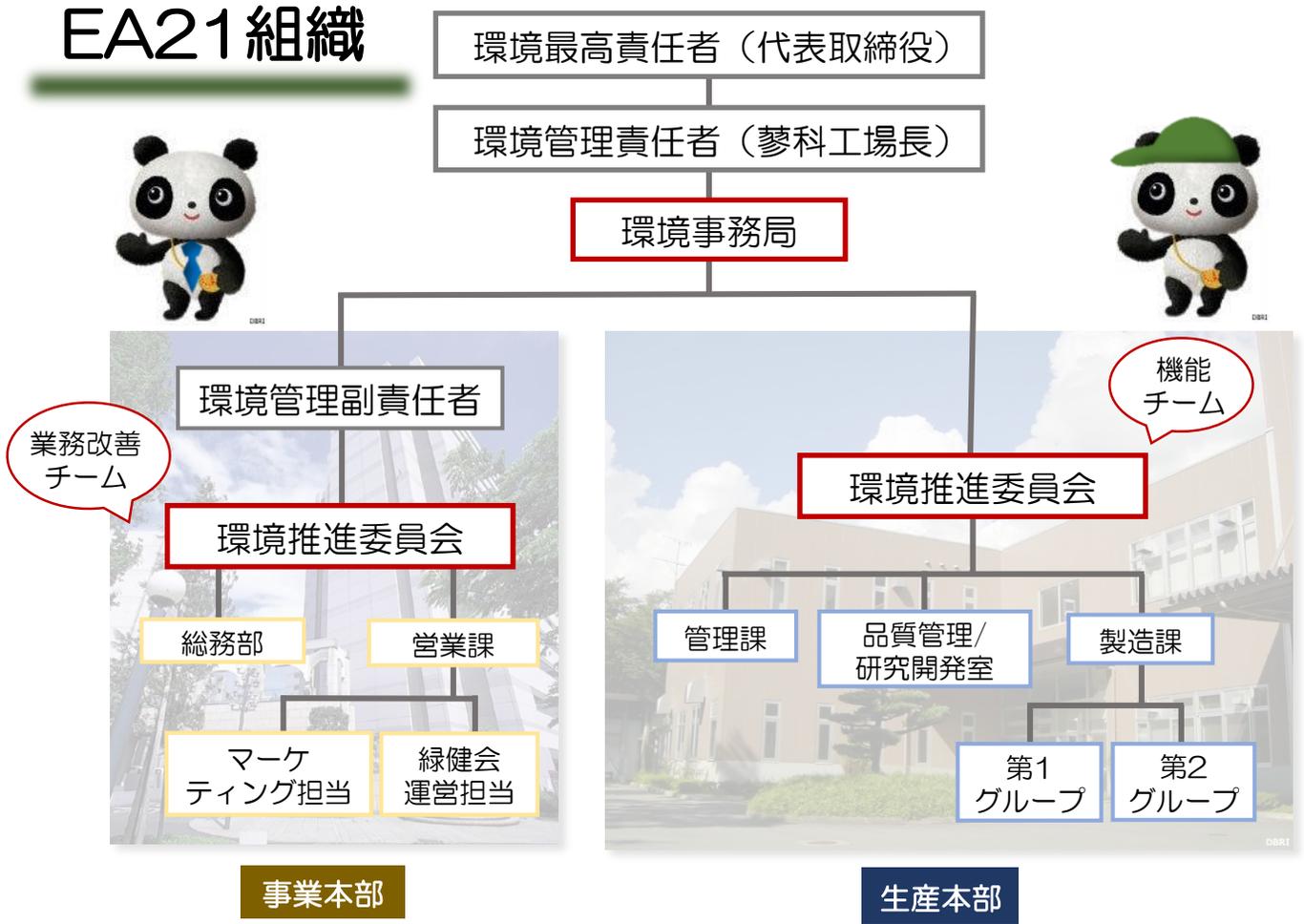
笹の恵シリーズ



ササヘルスなどの医薬品や健康食品などを製造、販売しております。
清らかな水と大地に育まれたクマ笹のもたらす自然の力に着目してきました。古くは明の時代から漢方生薬として、また近年では薬理作用を伴う新しい医薬品として完成されたのが「ササヘルス」です。

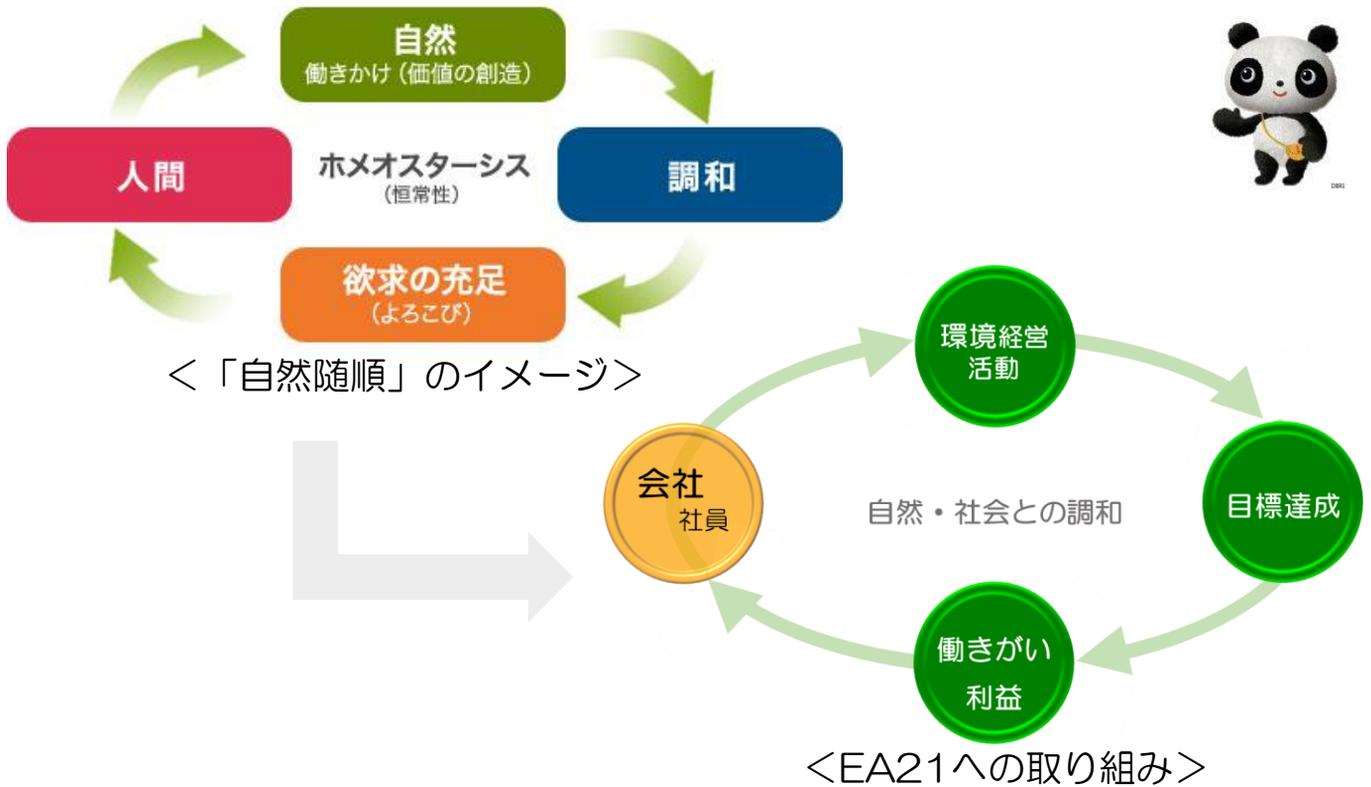
3. 環境管理体制

EA21組織



役職・組織名	役割・責任・権限
環境最高責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 代表者による全体の評価と見直しの実施 環境管理責任者を定め、必要な責任者を任命
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みの実行責任者として活動を推進 取り組みの実施状況等の確認 法規制等の遵守状況の管理
環境管理副責任者	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みの実行副責任者として活動を推進 取り組みの実施状況等の確認 主に事業本部における活動を推進・管理
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境関連文書・記録等の作成
環境推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する重要事項の審議 環境管理責任者・環境事務局との連携、並びに実行部門へのサポート
業務改善チーム	<ul style="list-style-type: none"> 事業本部における取り組みの推進・管理
機能チーム	<ul style="list-style-type: none"> 生産本部における環境項目への取り組みの推進・管理

4. 企業理念から環境経営方針へ



自然随順

～働き甲斐のある 儲かる会社へ～

10年先を見据えた
ビジネスプラン

EA21を軸とした経営転換

営業部改革及び原価1/2

環境・利益
の循環

5. 環境経営方針

1. 以下について具体的な環境目標を定め環境活動計画に基づき継続的な改善に努めます。
 - 1) 電気及び化石燃料の使用量削減に取り組み二酸化炭素の排出量を削減します。
 - 2) 循環型社会形成の為に省資源・廃棄物の削減及び再資源化に取り組みます。
 - 3) 水資源を有効活用します。
 - 4) 化学物質の適正管理を行ないます。
 - 5) グリーン購入を推進します。
2. 環境保全に関連する要求事項を遵守します
3. 改善提案制度、品質ポリシー実現活動、5S活動を通じて、原価1/2等の生産性向上に結び付け、これによって本来業務と環境保全活動を一体のものとしします。
4. 関連団体である（財）蓼科笹類植物園「笹離宮」を通じて、地域と社会に貢献します。
5. 社員教育を徹底します。



制定日：2012年7月1日
改訂日：2017年7月1日

代表取締役 大島高明

6. 環境経営方針実現に向けて～計画～



10年先を見据えたビジネスプラン

- 研究開発型企业へ
- 販路拡大（海外）
- 原価1/2
- 次世代の育成 他

EA21を軸とした経営転換

営業部改革及び原価1/2

■ 営業部改革

- タブレット無償配布によるIT活用で生産性2倍
→外回り営業の効率化を図り、営業の一部を新組織へ
- 外部市場開発に向けた新組織スタート
- 新製品開発と新規市場開拓に向けた新組織スタート

■ 原価1/2に向けた生産性向上

- 製造経費1,000万円削減
- 生産本部 品質ポリシーの実現
最高の原料、最高の品質、最高の技術
GMPを超える生産工場へ
お客様の満足こそ求める品質

クマザサ抽出液の用途拡大
→更に生産性が向上

■ （教育理念に基づいた）次世代育成プログラム推進

ES（従業員）満足→働き甲斐へ

本来業務への取り組みを通して、
環境項目の目標達成を目指します！



7. 環境経営方針実現に向けて～当期の実績～

🐼 主な取り組み内容 🐼

★営業部改革

- 販売店へのタブレット無償配布により情報はIT化
→外回り営業担当削減
→営業担当から新組織のマーケティング担当へ
- 新製品開発と新規市場開拓に向けてスタート

★工場の生産性向上

- 改善活動の活性化を目的に改善登山の実施
- 毎月100件提案目標 半年で761件達成！



★本気の議論の実施

- 「儲かる会社にするために」を議題として会社全体で「本気の議論」を実施 → 課題の抽出や社内の連携強化
⇒CS（お客様満足）・ES（従業員満足）向上へ
⇒社内の風通しをよくして、働き甲斐のある会社に

↓ 本気の議論で出された課題の解決

★「事業推進室」（役員と所属長の会議体）設置

- 役員レベルの判断案件の即断即決が可能に

★「代表者会すぐやる課」の設置

- 社内の連携体制が整備



★環境掲示板の活性化



見える化

活動
内容

業務
実績

★創立50周年記念旅行



（於：ハワイ）

8. 当期環境経営目標・実績及び中期目標

環境項目



当期環境経営実績及び中期目標



項目			年度		第6期	第7期	第8期	第9期
			2016年度 (基準年度)	2017年度 (当期)	2018年度	2019年度		
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	目標		492,943		487,800	482,353	
		実績	515,217	466,609 (9.4%削減*3)				
電力 使用量の削減	kwh	目標		242,281		233,753	223,972	
		実績	250,808	243,033 (3.1%削減*3)				
	kg-CO ₂ *1	目標		116,779		112,669	107,954	
		実績	120,889	116,254 (3.8%削減*3)				
灯油 使用量の削減	原単位 (L/L) *2 実数 (L)	目標		1.015		1.013	1.012	
		実績	1.017 137,400	0.998 126,700 (7.8%削減*3)				
ガソリン 使用量の削減*3	燃費 (km/L) 実数 (L)	目標		15.7 14,992		15.7 14,992	15.7 14,992	
		実績	15.5 22,304	15.6 14,992 (32.8%削減*3)				
水 使用量の削減	原単位 (L/L) *2 実数 (m ³)	目標		176.351		174.57	172.967	
		実績	178.132 24,055	176.927 22,452 (6.7%削減*3)				
一般廃棄物 排出量の削減*5	kg	目標		2,327		2,296	2,263	
		実績	2,360	1,995 (15.5%削減*3)				
クマ笹抽出残渣 排出量の削減	原単位 (kg/L) *2 実数 (kg)	目標		0.688		0.681	0.674	
		実績	0.724 97,755	0.723 91,740 (6.2%削減*3)				

*1：二酸化炭素排出係数：中部電力（4～10月）0.480kg-CO₂/kwh、テブコカスタマーサービス（11～3月）0.477kg-CO₂/kwh
 *2：抽出液量当たりに換算、*3：事業本部のデータ、*4：前年度比で算出、*5：生産本部のデータ

9. 当期環境経営計画・取組内容及び結果と次年度の計画

環境項目



環境経営計画・取組内容及び結果と次年度の計画

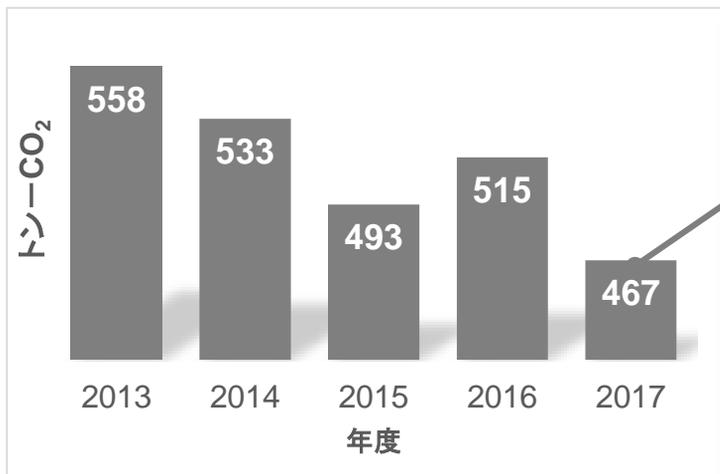


	第7期			第8期
	計画	結果	取組内容と評価	次年度の取組内容（計画）
CO ₂ 排出量	電力、灯油がCO ₂ 排出量に大きく寄与しているが、今期は電力削減に重点的に取組みを実施する。	○	デマンド警報による節電啓発が効果を発揮した。	灯油使用量削減に重点的に取り組む。
電気使用量	節電活動維持。デマンド装置の導入。	○	抽出工程改善による稼働時間短縮やデマンド装置導入によるピークカットのため作業に必要な設備の電源を切ることを実施した。	デマンドピークを抑える工夫を検討。製造工程の改善に取り組む。配管の断熱を再検討する。
灯油	ボイラー運転時間の削減（こまめにスイッチを切る）	○	抽出工程の改善や日々のボイラー運転時間削減により目標達成。	抽出工程生産計画の工夫。配管の断熱を再検討する。
ガソリン	営業部改革による外回り営業の削減	△	外回り営業の削減やルート効率化により、ガソリン使用量は削減したものの目標は未達成。	営業ルートの効率化。タブレットの活用。維持目標として管理。
水	再利用水の有効活用。抽出工程での効率化。	△	工程改善や生産バランスの調整により、前年度よりは削減されたものの、目標はわずかに未達成。	抽出工程生産計画の工夫。製造工程の改善に取り組む。
一般廃棄物	分別の徹底、廃棄物量の見える化	○	（笹）の不適合品を乾燥させて廃棄することにより廃棄量の削減が進んでいる。	可燃ごみに絞った管理の実施。
クマ笹抽出残渣	有効活用方法の検討、抽出工程の改善	△	残渣の再利用先と交渉中。抽出工程改善に取組み笹の使用量は減らしているが、成果として表れていない。前年度よりは削減されたものの、目標は未達成。	引き続き、有効活用方法の検討、抽出工程の改善に取り組む。

CO₂排出量は「事業本部と生産本部の電力」、「生産本部の灯油」、「事業本部のガソリン」を管理
ガソリンは事業本部のみ。その他は生産本部のみ

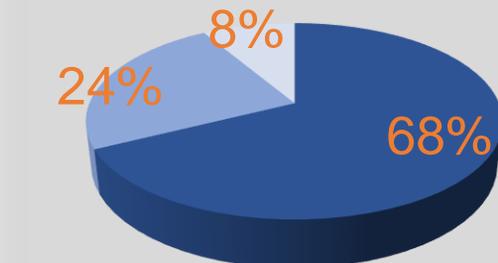
10. 環境目標の達成状況①

環境項目



二酸化炭素排出量の推移

二酸化炭素排出量は年々少なくなってきました。
排出元のほとんどは工場のボイラーが消費する灯油です（下図）。



■ (事)灯油・LPG
■ (事)電力
■ (事)ガソリン・電力



電気使用量の推移

抽出工程改善による作業時間短縮
やデマンド装置導入によるピーク
カットのため作業に必要な設備
の電源を切る活動の成果。



灯油使用量の推移

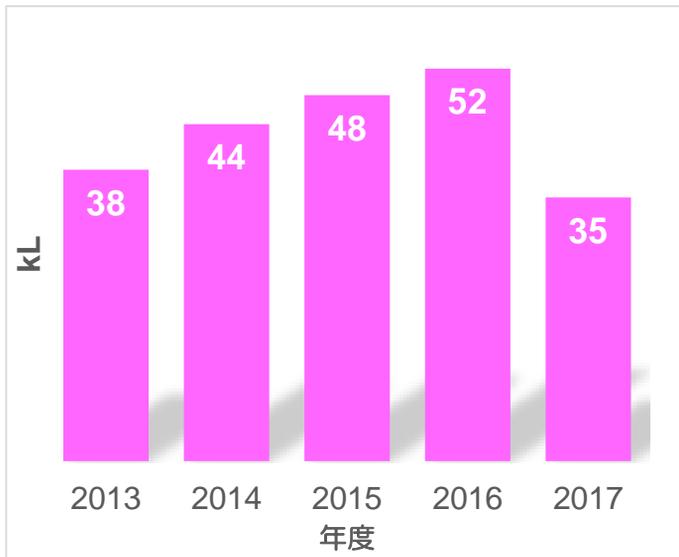
(生産本部、抽出液1L製造当たり)

抽出工程の改善や日々のボイ
ラー運転時間削減による成果。



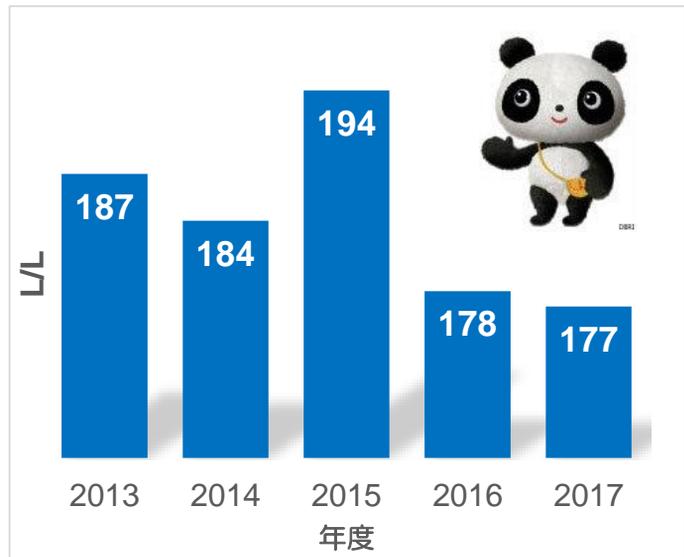
10. 環境目標の達成状況②

環境項目



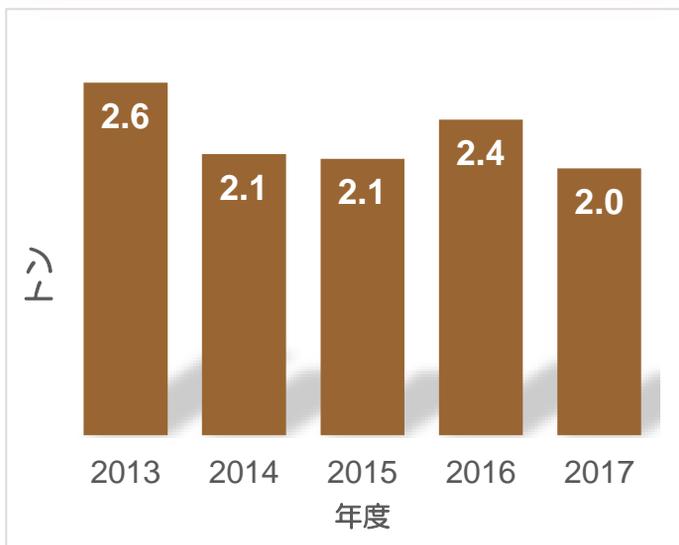
ガソリン消費量の推移 (事業本部)

営業部改革により営業訪問が効率化され大きく削減できました。



水使用量の推移 (抽出液1L製造当たり)

水の再利用や抽出工程改善で削減が進んでいます。



一般廃棄物の推移 (生産本部)

原料(笹)の不適合品を乾燥させて廃棄することにより廃棄量の削減が進んでいます。



クマ笹抽出残渣廃棄量の推移 (抽出液1L製造当たり)

残渣の再利用先との交渉中であるものの、なかなか実現せず、削減が進まない状況です。

1 1. 環境活動への取り組み ～地域・社会への貢献～



★医薬品OTCイベントに参加
クマ笹関連製品による健康啓蒙活動



★KSPリサイクルマーケットへの参加



★サイエンスフェスタに出展
クマ笹抽出残渣を用いた和紙を紹介
(ゼロエミッションに向けた技術をアピール)

子供たちと
クリスマスカード
を作りました♪



地域・社会活動にも積極的に参加し
地域・環境との共生に努めています！



★献血への協力



★笹離宮の整備



★工場周辺の清掃

1.1. 環境活動への取り組み ～笹離宮を通じた笹文化の発信～



蓼科工場に隣接する笹離宮とは、「笹のための離宮」という意味です。100種を超えるクマ笹の仲間を集めた笹類専門の植物園で、これほど多くのクマ笹の仲間を集めた植物園は他に類を見ません。

クマ笹の未知なる可能性を引き出し、地域文化に貢献することを目指しています。そして笹・竹を生活に取り入れた「クリーンで、健康で、美しい」生活スタイル、文化提案を世界に発信するとともに、「共生と共創」を目指していきたいと考えます。

数寄屋庭園の要素がふんだんに使われ、自然と触れ合いながら笹・竹への関心を高めてもらうと同時に地域の方々の憩いの場となることを目指しています。

笹離宮HP

<http://tateshina-sasa.com/>



12. 環境法規の遵守

法規制等の名称	該当する要求事項 (対応すべき事項)	判定
廃棄物処理法	・委託基準：一廃収集業者の許可の確認	○
	・委託基準：産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	○
	・委託産業廃棄物処理状況の確認	△
	・保管基準	○
	・掲示板：60cm×60cm以上表示	○
	・マニフェスト交付	○
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	○
	・水銀使用製品廃棄物の管理・廃棄	○
容器包装リサイクル法	・容器包装用資材の再資源化義務 対象：ビン、紙、プラスチック類 委託処理料金の支払い	○
フロン排出抑制法	・使用者（管理者）による簡易点検	○
グリーン購入法	・できる限り環境物品等を選択するよう努める	○
騒音規制法 茅野市公害防止条例	・特定施設の事前届出 ・規制対象区域外だが届出必要	○
振動規制法 茅野市公害防止条例	・特定施設の事前届出 ・規制対象区域外だが届出必要	○
水質汚濁防止法 下水道法 茅野市下水道条例	・灯油及び有害な化学物質の流出事故時の措置と届出 ・緊急時対応手順書に沿って対応	○
	・特定施設の届出	○
	・排出基準の遵守	○
	・排水の測定・記録（3年保存）、監視 ・蓼科工場排水処理規定	△
消防法	・危険物（第4類第2石油類灯油）の指定数量以上の貯蔵所設置届	○
	・消防活動阻害物質の貯蔵又は取扱いの開始届出	○
毒物及び劇物取締法	・盗難／漏洩防止 ・容器、貯蔵場所に表示 ・事故・盗難時届出（警察など）	○

活動期間中の環境関連法規制等の遵守状況の評価をした結果、環境関連法規制等は概ね遵守されています。

下水排除基準については、自主管理でも茅野市より指摘も受けず適正に管理できていました。

しかしながら、記録類の管理がしっかりできていなかったため評価は△としました。記録計の不具合もあってエビデンスが残せない時期があり反省するところです。設置から15年程経っているので良く監視していきます。

委託産業廃棄物処理状況の確認は、2011年4月の法改正により努力義務となっておりますが、遠方の木曾町日義にある処理業者への現場確認は今期も行けず評価は△としています。

その他の項目については、現在及び過去3年間で問題のない事を確認いたしました。同様に関係機関及び顧客・近隣住民からの苦情、訴訟もございませんでした。



13. 代表者による評価と見直し

今期は、組織を刷新し環境管理責任者を正副2名体制とし、それぞれの事業所に設置しました。また、環境活動を中心にしていたエコアクション21を経営マネジメントシステムとして取り入れ、業務全体に活用することを年度方針に取り組みました。

また「儲かる会社にするために」を議題として会社全体で「本気の議論」を行い課題の抽出を行いました。その結果、社内の風通しを良くして「働き甲斐のある儲かる会社」を目指すため社内の連携強化を進めました。

議論で出された役員と所属長の会議体「事業推進室」の設置により、役員レベルの判断案件の即断即決が可能となり、また、組織を横断したチーム「代表者会すぐやる課」の設置により、社内の連携体制が整いました。

PDCAをいかに「早く」「確実に」回していくかが重要であり、そのためのシステム作りが急務です。

デマンド装置の導入や抽出工程の改善等により、電力使用量削減しましたが、主要な水の目標が未達成であったことは問題と考えます。生産バランスの調整などを業務改善計画に盛り込むことで、目標達成を期待します。

「見える化」「測る化」「3現主義（現場、現物、現実）」を通じた「提案」に向け、見えないものを「見える化」する、測れないものを「測る化」していく。そのための教育訓練やシステム作りにも取り組みます。

今後はエコアクション21を活用し、事業計画2024の実現に向けて各部署各個人の目標の着実な達成を目指します。

